**パラグアイ内政・外交報告（７月分）**

**政治情勢**

**２０１６年８月作成**

内政では，１日，カルテス大統領が議会において年次報告を行い，貧困対策，経済発展，社会開発，教育改善等の分野における成果を強調した。

外交では，ベネズエラへのメルコスール議長国移行問題に関し，ロイサガ外相が，ベネズエラ情勢に変化が見られるまでの間，ウルグアイが引き続き議長国に留まるべきである旨の立場を表明する共に，議長国交代は，共同市場理事会及び首脳会合でのコンセンサスをもって行われるものである旨強調した。

**１　内政**

**（１）カルテス大統領による年次報告**

●１日，カルテス大統領は議会において年次報告を行ったところ，概要以下のとおり。

＜貧困対策＞

●低コストでの民生住宅建設を実現し，２０１２年との比較において，２０１５年に７倍の民生住宅を建設した。

●テコポラ計画（貧困家庭への現金支給を含む援助計画）の対象世帯を６６％増加（２０１２年比）させた。対象世帯数を現在の約１３万世帯から１４万世帯に引き上げることを今後の目標としている。

●過去の農地改革における不正な土地の分配に関し，過去３０年間，いずれの政権も１ヘクタールたりとも没収できなかったが，現政権は７万ヘクタールの土地の没収に成功した。

＜経済発展及び持続可能な社会開発＞

●年内に公共バスの２３％を新車両に入れ替える予定である。右新車両には，既に導入されているエアコン付きの４４１台のバスが含まれている。

●年末までに，公共事業通信省が入札にかける公共事業の総額は５１億ドルに上る予定である。

●現政権は，１８９４㎞の道路のアスファルト化工事を行った。右は，過去４０年間にアスファルト化された道路の３５％に及ぶ。

●マキラ制度を活用した輸出は，２０１２年の１４０百万ドルから，１０３％増加し，２０１５年に２８４百万ドルを記録した。

＜教育＞

●１５０万人の学生に対し，遅延無くスクールキットを配布した。

●学生らとの間で，教育予算の割合を対GDP比７％（現在３．９％）に引き上げることに合意した。

**（２）コンセプシオン県における誘拐事件**

●２０日から２１日にかけ，コンセプシオン県において，ロムロ・ロハス牧場経営者及びアントニオ・アルフォンソ牧場長が何者かに誘拐された。犯行グループから身代金として７億５千万グアラニー（約１３万米ドル）の要求があった。

●２１日，ロムロ・ロハス牧場経営者及びアントニオ・アルフォンソ牧場長が，自力で誘拐犯から逃げ出し保護された。今回の犯行グループについて，国家警察庁誘拐対策室長は，パラグアイ人民軍（EPP）や農民武装グループ（ACA）によるものではなく，地域の犯罪グループによるものである旨述べている。

**（３）サンペドロ県における誘拐事件**

●２７日，サンペドロ県のメノナイト移住地リオ・ベルデにおいて，パラグアイ人民軍（EPP）と思われる武装犯グループがトウモロコシ農場を襲撃し，Franz Wieve Boschaman（17歳）と聴覚障害を持つPedro Petersの２名を連れ去った。

●今回の誘拐事件により，EPPによる未解放の誘拐被害者は，他，２０１４年７月に誘拐されたモリニゴ警察官（コンセプシオン県），２０１５年８月に誘拐されたメノナイト系住民フェル氏（サン・ペドロ県）の計３名となった。

**２　外交**

**（１）カルテス大統領のペルー訪問**

●７月２７日～２８日，ペルーを訪問したカルテス大統領は，２８日，ペルー大統領就任式に出席し，また，これに先立ち２７日，クチンスキー次期大統領私邸において同大統領と二国間関係について会談を行った。カルテス大統領は会談後，貿易分野以外においても二国間関係を一層深めていきたいとの意向を示した。

●会談に同席したロイサガ外相は，同会談において，政治，経済，文化各分野における友好・協力関係を引き続き強化していく旨確認されたと述べた。また，パラグアイが太平洋同盟のオブザーバー国であり，メルコスール及び同同盟間の調整役を担うことも受け，両国関係強化に向けたより一層の意欲が両者から示された旨述べた。

**（２）カルテス大統領のイスラエル訪問**

●１７日～１９日，イスラエルを訪問したカルテス大統領は，１８日，リヴリン大統領と会談した。会談後の記者会見でカルテス大統領は，イスラエル建国決議に賛成票を投じて以来の二国間の良好な関係に触れ，今後も教育分野を重点に，バイオテクノロジー分野等でも協力関係を強化したい旨述べた。これに対し，リヴリン大統領も，経済，科学，国防分野での関係拡大の意向を示し，また農業インフラにおける具体的協力の可能性を強調した。

●１９日，カルテス大統領はネタニヤフ首相と会談し，二国間の技術協力について協議した。会談後，共同宣言及び司法分野等における協力合意への署名がなされた他，パラグアイ外務省及びイスラエル国際協力センター（MESHAV）間で農業，保健及び先端技術に関する合意が結ばれたことも発表された。カルテス大統領は，記者会見において，イスラエルの国家安定に向けた努力を支持する旨述べた。

**（３）ロイサガ外相のスペイン訪問**

●２０日，スペインを訪問したロイサガ外相は，ガルシア＝マルガージョ・スペイン外務・協力相との会談を行い，二国間及び国際場裡における主要アジェンダにつき協議を行った。なお，同会談は，第三回二国間政策協議のマージンで行われた。

●両大臣は，両国における民主主義強化プロセス，人権擁護及び市民の権利の強化を継続する重要性につき一致した。また，両大臣は，域内，特にメルコスールの統合プロセスにおけるパラグアイの中心的な役割，スペインのＥＵにおける役割を強調した。

●また，両大臣は，スペイン企業家のパラグアイ来訪が顕著であることを強調すると共に，投資促進に向け，パラグアイの良好なビジネス環境，低い税率及び豊富な電力を活用しうる点を強調した。

**（４）アルマグロＯＡＳ事務総長の当国訪問**

●１３日，パラグアイを訪問したアルマグロＯＡＳ事務総長はロイサガ外相と会談を行い，パラグアイが国際的司法メカニズムへの尊重，民主主義及び人権擁護のための国際的システムのメカニズムを適用していることに対する評価と謝意を表明した。

●これに対し，ロイサガ外相は，ＯＡＳパラグアイ常駐代表が先のＯＡＳ総会で先住民の権利に関するアメリカ宣言をまとめた旨，パラグアイのＯＡＳにおける関与につき意見交換した旨紹介した。また，同会談においては，２０１４年，パラグアイで開催されたＯＡＳ総会において承認された社会的包摂を伴う成長に関するアスンシオン宣言の点検，中南米・地域統合への課題及び民主主義システムにおいて法の支配を完全に有効とする課題についても意見交換が行われた。

**（５）ベネズエラへのメルコスール議長国移行問題**

●２６日，ロイサガ外相は，ベネズエラへのメルコスール議長国移行に関し，加盟国内でコンセンサスを見いだせていないことから，「ベネズエラ情勢に変化が見られるまでの間，ウルグアイが引き続き議長国に留まるべきである」旨述べた。また，同外相は，ウルグアイの議長国継続の可能性について，２０１３年～２０１４年にかけて，ベネズエラからアルゼンチンに議長国を交代するべきであった際，メルコスール首脳会合が実施されず，結果，ベネズエラが議長国に留まったという前例が存在する旨述べた。更に，議長国交代は，自動的に行われるものではなく，共同市場理事会及び首脳会合でのコンセンサスをもって，行われるものである旨述べた。

**３　要人往来**

**（１）来訪**

●１３日，アルマグロＯＡＳ事務局長（ロイサガ外相との会談）

**（２）往訪**

●３日～５日，バイアルディ女性相，チリ訪問（女性関連会合出席）

●９日～２６日，レイテ商工相，ロシア，イスラエル，イタリア訪問（経済ミッション）

●１８日～２６日，ペーニャ蔵相，アルゼンチン，ウルグアイ訪問（アンデス公社関連会合出席）